

帰国生の受け入れクラスに対する意識 —受け入れ形態の際に着目して—

岡村 郁子

学位取得年月：平成19年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 帰国生教育、日本語教育、異文化適応、クラス意識

【要旨】

帰国生の『受け入れクラスに対する意識』に関する質問紙調査の結果、「友達との関係」「日本語運用力」「楽しさ・居心地のよさ」「積極的参加」「自由な自己表現」「在外経験の肯定的活用」「先生・友達からの認証」の7因子が見出され、これらは受け入れ形態や在外年数ではなく現地との関わりの深さにより規定されていることが認められた。『クラス意識相互の関連性』では、①「在外経験の活用」は他の因子とほぼ相関がないこと、②「楽しさ・居心地のよさ」には「友達との関係」や「積極的参加」等の因子が顕在的に関与し、加えて一般混入クラスでは「日本語運用力」が他の因子と高い相関を持って潜在的に影響を及ぼしていること、が示された。

(おかむら いくこ)

児童を対象とした対話的問題提起学習に関する —考察—

菅野 綾

学位取得年月：平成19年3月
取得学位名：人文科学修士
学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】 対話的問題提起学習、子どもクラス、意味づけ、ナラティブ、1年後の語り

【要旨】

本研究は活動形態の異なる2つの対話的問題提起学習を対象に児童らの学習中及び学習終了1年後の意味づけとその変容について明らかにした。

その結果、外国人児童の意味づけにはほとんど変容はなかったが、日本人児童の意味づけでは外国人児童について考える視点や自分が多言語多文化社会にいるという認識が窺えないという変容及び学習を問題提起のコードと認識できないという変容が見られ、言語多数派の日本人児童は学習時に得た学びが消えやすい可能性が示された。またその要因には日本人児童の置かれている環境(英語が身近である、多言語多文化性を身近に感じ難い状況にいる)及びコード提示のフィクション性が関連していることが示唆された。

(かんの あや)